



フルスコア

SK-102

グリーグ「ペールギュント」より  
**山の王の宮殿にて**

**小島里美編曲**

北欧を代表する作曲家グリークの「ピアノ協奏曲イ短調」と並ぶ珠玉作品であるこの「ペール・ギュント組曲」は、同郷ノルウェーの文豪イプセンの書いた幻想的な詩劇の為の、劇音楽であった。現在演奏される「ペール・ギュント第1組曲」は、後に作曲者自身が「朝」「オーゼの死」「アニトラの踊り」「山の王の宮殿にて」の4曲を選び配列したもので、緩急の組み合わせがソナタ形式のようになっており、組曲の構成としても素晴らしい。しかし何と言っても人気の秘密は、楽想の自由な表現、北欧人特有の豊かな詩情による美しい旋律であろう。

ここで取り上げた「山の王の宮殿にて」は、グロテスクな行進曲風の曲で、主題が段々発展し、テンポを速めていって、高潮しきったところで、ティンパニーのトレモロに導かれ、組曲全体を締めくくるものである。

〔演奏上の注意〕

たて(パート毎)横( $p \rightarrow fff$ という全体の流れ)の音量のバランスを充分に考えて、曲をまとめて欲しい。ただしリコーダーは、音程が狂わない程度のクレッセンドにすること。**C**の5小節目からの**D**の音は、タンギングをするとひっくり返り易いので、小さく「フッフッ」と言うように吹くとよい。木琴が1台しかない時は、**F**(**H**)は上の音、**I**の1.2小節目と**J**からは下の音を演奏。鉄琴の場合は、**G**では下の音を演奏すればよい。

アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、及び木琴、鉄琴に於て和音が書かれてある箇所は、和音弾きをせず、各々が一つずつ音を弾き、和音をつくって下さい。

○ ミュージックエイト

*Alla marcia*

フルート  
(無くても)  
演奏可能

ソプラノ  
リコーダー

鍵盤  
ハーモニカ

ソプラノ  
アコーディオン

アルト  
アコーディオン

テナー  
アコーディオン  
(オクターブ)  
(上に記譜)

バス  
アコーディオン

木琴

8Va

The musical score consists of five staves. The top staff is for Flute (フルート), indicated by a treble clef and a C-clef. The second staff is for Soprano Recorder (ソプラノリコーダー), indicated by a treble clef and a dynamic marking 'p'. The third staff is for Harmonica (鍵盤ハーモニカ), indicated by a treble clef. The fourth staff is for Accordion (ソプラノアコーディオン), indicated by a treble clef. The fifth staff is for Bassoon (アルトアコーディオン), indicated by a bass clef. The bottom staff is for Bassoon (テナーアコーディオン), indicated by a bass clef. The score is in common time (indicated by a 'C') and includes various rests and dynamic markings like 'mp' and 'f p'.

This section of the musical score continues the piece 'Alla marcia'. It features five staves. The top staff is for Flute (フルート). The second staff is for Soprano Recorder (ソプラノリコーダー). The third staff is for Harmonica (鍵盤ハーモニカ). The fourth staff is for Accordion (ソプラノアコーディオン). The bottom staff is for Bassoon (アルトアコーディオン). The score is in common time (indicated by a 'C') and includes dynamic markings like 'mp' and 'f p'.

SAMPLE

グリーグ「ペールギュント」より  
山の王の宮殿にて

鍵盤ハーモニカ

小声

*Alla marcia*

